〈第19回〉　御幸西子ども会（3）　「春祭り　かけあんどん」

育成会（新）会長　山口悠花

令和３年３月５日（金）、山田神社の「春祭りのかけあんどん」の行事を行いました。かけあんどんは春と秋（１０月１８日）に行われ、春祭りのかけあんどんは「五穀豊穣への祈り」です。

この時期に祭りがあるのは、先人の方々は春の訪れと同時に（旧正月過ぎ）畑や田んぼを耕し（または広げ）より豊かな生活を目指して動いていたのではないかと思います。秋祭りのかけあんどんは「収穫への感謝」の意味があります。（秋のかけあんどんは〈第７回〉で紹介しました。）春も秋も祭りの日は決まっています。

春の農作業に始まり秋の収穫まで繋がっています。今の私達は便利な物が沢山あって幸せですね。でも先人の方々はそんな薄っぺらな幸せではなく、心から命の尊さ、恵みの有り難みを噛み締め、幸せを全身全霊で感じていたことでしょう。

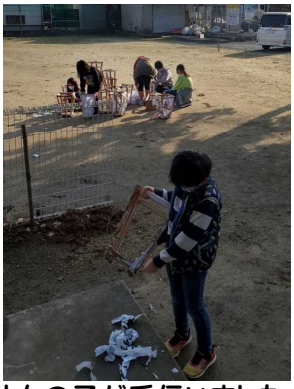
過去を遡ると加藤清正公の時代からこの「かけあんどん」は行われております。この古くからの行事は男の手で行われており、聞くところによりますと祀られている水神様が女性であると伝えられているそうです。

ここ御幸西地域は昔から子供が沢山おり、男子児童によって行灯を洗い、新しく作り、この広い地域を歩いて寄付金を集め当日を迎えていました。しかし、時代と共に少しずつ少子化が進み児童の人数が減りすべての作業が困難になりました。

そこで、自治会長とも話し合い、この春の祭りで初めて女子児童の力を借りる事となりました。女子には行灯洗いや習字の手伝いをしてもらいました。男子はその間に寄付金集めに励む事が出来ました。

子供達のこの一連の作業は1ヶ月前から始まります。

寄付金集め



古いあんどん剥がし：今年は女の子が手伝いました

綺麗になったあんどんの枠

女子児童が「奉寄進」と墨で書きました

新しく書き直した習字を行灯に貼って行きます。

この時、児童の父親も数人来てくださりました。その時の会話が「私も小学生の頃やった覚えがあります」との事。その時の表情が誇らしく懐かしむように見えました。その時に長く伝わる伝統行事を絶やさぬよう、今この子供達が父親になった時にまた懐かしめる様にあればと思いました。

かけあんどん当日は、夕方から集まり最後の作業は行灯を飾り火を灯すことです。
日が暮れる7時頃から始まります。神主さんが五穀豊穣を祈り舞を舞います。
そこには時代の流れが止まったかのようにとても幻想的でした。

参道と拝殿前のあんどん

点火

キャラクターなどが
書いてあります

男子がお祓いをしてもらい祈ります。普段関わる事がなかった女子も多く参拝に来ました。
地域の方も多く参拝に来られ私達誘導係りにあたたかい言葉を掛けて下さりました。

お祓いを受ける参拝者

6年生のあんどん

山田神社「かけあんどん」の日

かけあんどんで頑張った上級生達　やり遂げた満足感の笑顔

事務局から　　事務局長　白石和典

1　お忙しい中に育成会新会長さんから、原稿とたくさんの素晴らしい写真をいただきました。有り難うございました。

　古くから御幸西地域に伝わる春と秋に行われる大切な行事に、子ども会が行灯を作って奉納するという活動は本当に素晴らしいことです。代々世話されてきた子ども会育成会の方々が地域の行事を理解され、神社、地域自治会との結びつきを強め、活動を継続的にされてきたことに敬意を表します。

2　コロナ禍で、しかも少子化で男子児童が少なくなっている中に時代に対応して伝統を守り抜く御幸西子ども会の姿勢に感動しました。時代が移り変わるなかで、４００年以上の伝統を守り抜くことは並大抵の決意と努力無しには出来ないのではないかと思います。

3　１ヶ月以上も前から準備にかかるとのことですが、広場に集められたあんどんの写真を見れば納得です。この準備だけでも子ども達の努力はすごいですね。

4　春と秋の祭りにはそれぞれ大切な意味があり、日本の稲作３０００年以上の農耕文化と密接に関わる春・秋の祭りは共に、命の尊さ、恵のありがたさに感謝することで繋がっているのですね。

5　子どもたちは一連の活動で素晴らしい体験をしています。御幸西子ども会の益々のご発展と子どもたちの健やかな成長をお祈りいたします。

※単位子ども会活動の紹介は随時募集しています。皆様の子ども会活動をＨＰで紹介してみませんか。編集、レイアウトは当方で行います。原稿、写真をご提供下さい。気軽にご応募下さい。